
XPC ユーザーガイド

対象ソフト: SX58H7

Shuttle®

XPC インストールガイド

Copyright

©2009 by Shuttle® Inc. All Rights Reserved.

本出版物のいかなる部分も、Shuttle® Inc. の書面による事前の許可なしには、いかなる条件下でも、また電子的、機械的、磁氣的、光学的、化学的、写真複写など、その他のいかなる手段によっても、コピー、転写、検索システムへの記憶、いかなる言語への翻訳、または伝送を行うことができません。

このマニュアルで使用されているその他のブランドと製品名は識別目的のためだけのもので、それぞれの所有者のトレードマークです。

免責条項

Shuttle® Inc.はこの製品の実行または使用に起因する付随的損害または間接的損害に責任を負いません。

Shuttle® Inc. は、このマニュアルの内容に関していっさいの表明または保証をいたしません。このマニュアルに含まれる情報の信頼性については万全を期してチェックされていますが、内容の正確さについてはいっさい保証いたしません。製品の継続的な向上を実現するために、Shuttle® Inc. では改訂や変更を事前に通知する義務を負わずに、いつでもマニュアルを改訂したり、本製品の仕様を変更する権利を留保します。このマニュアルに含まれる情報は、顧客による一般的使用のために提供されています。

このデバイスは FCC 基準パート 15 に準拠しています。操作は次の 2 つの条件に規制されます：

1. 電波障害を起こさないこと、
2. 誤動作の原因となる電波障害を含む、受信されたすべてのバックグラウンドの電波障害に対して正常に動作すること。

商標

Shuttle は Shuttle Inc. の登録商標です。

Intel と Pentium は Intel Corporation の登録商標です。

PS/2 は IBM Corporation の登録商標です。

AWARD は Award Software Inc. の登録商標です。

Microsoft と Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。

一般的通知

このマニュアルで使用されているその他のブランドと製品名は識別目的のためだけのもので、それぞれの所有者のトレードマークです。

安全に関する情報

Shuttle XPC. をセットアップする前に、次の注意事項をお読みください。

注意

バッテリーを間違えてセットすると、このコンピュータが損傷する原因となります。交換する際は、Shuttle が推奨するバッテリーと同じものまたは同等のものだけを使用するようにしてください。使用済みバッテリーは、メーカーの指示に従って処分してください。

レーザー準拠声明

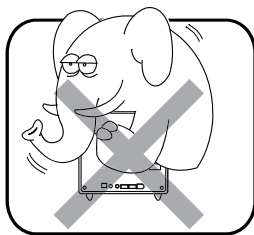
このサーバーの光ディスクドライブは、レーザー製品です。
ドライブの分類レベルは、ドライブに貼ってあります。

クラス 1 レーザー製品

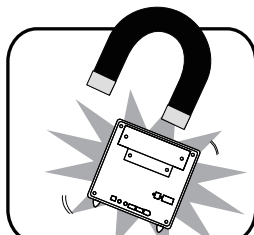
注意：開けると目に見えないレーザー照射にさらされます。
ビームへの暴露を避けてください。

インストールに関する通知

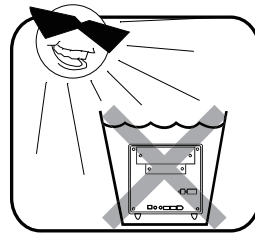
この装置を重量物の下、または不安定な場所に設置しないでください。



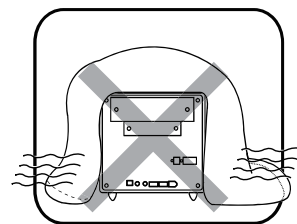
この装置を磁場の周囲で使用したり磁場にさらしたりしないでください。磁気妨害により、装置のパフォーマンスに影響がおよぶ可能性があります。



この装置を強い直射日光、高湿度または濡れた状態にさらさないでください。



この装置の換気孔を塞いだり、空気の流れを妨げたりしないでください。



目録

1 機能の紹介	1
1.1 はじめに	1
1.2 モデルスペック詳細	2
1.3 XPC 外観図	3
1.3.1 XPC フロントパネル	3
1.3.2 XPC バックパネル	3
1.4 バックパネル	4
1.5 XPC マザーボード	5
1.5.1 SX58H7 マザーボード	5
1.5.2 ジャンパー設定	6
フロントパネルヘッダ	6
HD-オーディオ コネクタ	6
拡張 USB ヘッダ	7
PS/2 キーボード & マウス ヘッダ	7
AUX-IN コネクタ	7
Fan ヘッダ	8
GPIO ヘッダ	8
SPDIF-In/Out コネクタ	8
CIR ヘッダ	8
2 XPC インストールガイド	9
2.1 取り付けの開始	9
2.1.1 カバーの取り外し	9
2.1.2 ベイマウントの取り外し	9
2.2 CPU と ICE の取り付け	10
2.2.1 ICE の取り外し	10
2.2.2 CPU の設置	10
2.2.3 ICE の取り付け	12
2.3 メモリーの取り付け	13
2.3.1 ガイドライン	13
シングルチャンネルモードの設定	14

デュアルチャンネルモードの設定.....	14
トリプルチャンネルモードの設定	15
2.3.2 メモリーの取り付け	16
2.4 周辺機器の取り付け	17
2.4.1 HDDの取り付け.....	17
2.4.2 光学ドライブの取り付け.....	18
2.5 拡張機器の取り付け	19
2.5.1 PCI Express x16ビデオカードの取り付け.....	19
2.5.2 eSATA HDDの取り付け	20
2.6 最後に.....	21
2.6.1 シャーシカバー	21
2.6.2 フロント足の取り付け.....	21
2.6.3 完成	21
2.7 XPC アクセサリ.....	22
2.8 技術サポート	22
2.9 Technical Notes: CMOSクリアボタン.....	22

1 機能の紹介

■ 1.1 はじめに

この度は、Shuttle XPC をお選びいただきまして誠にありがとうございます。

Shuttle XPC は2001年に発表したモデルから世界中に普及したスモールフォームファクター-Small Form Factor (SFF)コンピューターです。

それぞれ XPC はベアボーン自作キットとして販売されています。電源、マザーボード、そしてシャーシがセットになっているので、CPU、メモリーを始めとする各デバイスのみご用意していただく事で、簡単に組み立て使用する事ができます。製品情報及び、販売に関する情報は <http://www.shuttle.com> で確認できます。

Shuttle XPC は、スモールサイズにも関わらずハイパフォーマンスを持ち合わせた製品です。一般的なデスクトップパソコンとは、大きく容貌の違っている中身は、インダストリアルスタンダードコンポーネントを採用したまったく変わらないものです。これは最少サイズでありながら、パフォーマンスに制限をかけることなくクオリティを維持している事を意味します。

これらを実現する為に Shuttle は Integrated Cooling Engine (ICE)テクノロジーを始めとする様々な新技術を開発し、特許を取得しております。この技術により、内部ノイズ、熱抑制、スペース確保等を実現させました。

■ 1.2 モデルスペック詳細

フォームファクター	● Shuttle Form Factor	
プロセッサ	● LGA1366, Intel® Core i7 family	
チップセット	● ノースブリッジ: Intel® X58 Chipset ● サウスブリッジ: ICH10R Chipset	
メモリスロット	● 3+1 トリプルチャンネル unbuffered non-ECC DDR3 1066/1333/1600(OC)MHz DIMM ● DIMM サポート up to 16GB system memory	
オーディオ	● Realtek ALC888 ● アナログ 7.1 channel アウト ● デジタル S/PDIF アウト	
イーサネット	● Realtek 811C (PCI-E インターフェイス) ● IEEE 802.3u 100Base-T compliant ● 10Mb/s, 100Mb/s 1000Mb/s ● DOS Wake-On-LAN対応 ● デュアルLAN 対応	
ストレージインターフェイス	● サウスブリッジ (2) eSATA コネクタ(リアパネル) (1) eSATA コネクタ(フロントパネル) (3) SATA 3.0Gb/s コネクタ ● Jmicron (1) UltraDMA 133 IDE コネクタ ● NCQ サポート	
オンボードコネクタ	(1) ATA133 IDE コネクタ (2) Fan コネクタ (2) Front Panel ヘッダ (1) BIOS ヘッダ (2) PCI-E X16 (1) eSATA Power (1) PS/2 キーボード&マウスヘッダ	(3) SATA コネクタ (2) Power コネクタ (1) AUX_IN ヘッダ (2) 2x5 USB 2.0 ヘッダ (1) CIR ヘッダ (1) プリンタポート (1) GPIO ヘッダ
電源	● 入力: 100Vac-240Vac, 80 PLUS Bronze準拠 ● 出力: 500W	
シャーシ	● Hシャーシ, (寸法: 325(L) x 208(W) x 189(H) mm) ● ベイ: (2) 3.5" bays (シャドウベイ) (1) 5.25" bay	



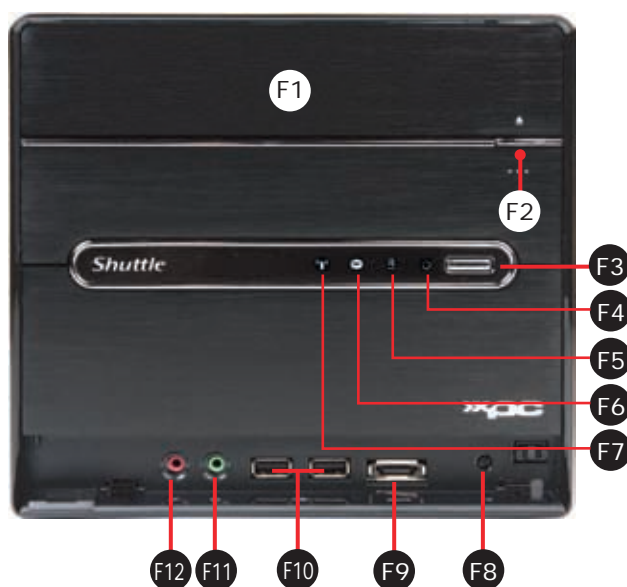
製品の色及びスペックは、実際と異なる場合がございます。

■ 1.3 XPC 外観図



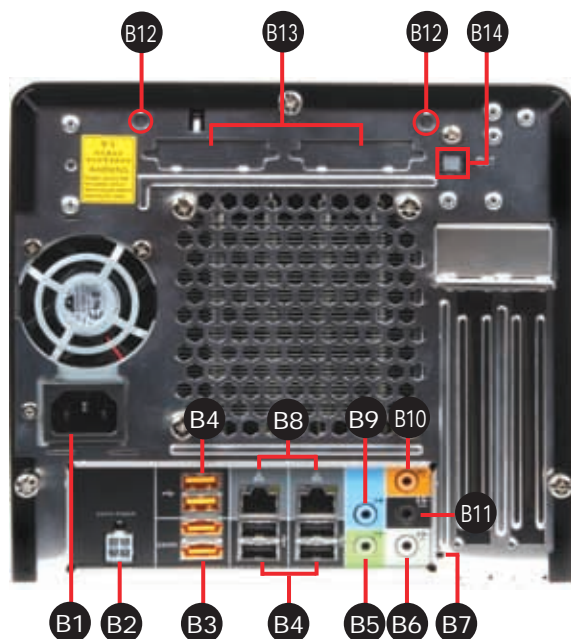
Shuttle製品には様々なオプションに合わせてバリエーションを持たせてあります。あなたの新しいXPCを構築する際に、必要な情報を下図よりご参考下さい。

■ 1.3.1 XPC フロントパネル



- F1. 5.25インチベイ
- F2. 取り出しボタン
- F3. 電源スイッチ
- F4. 電源LED
- F5. HDD LED
- F6. Bluetooth LED
- F7. WIFI LED
- F8. リセットボタン
- F9. eSATA ポート
- F10. USB2.0 ポート
- F11. イヤホン
- F12. マイク

■ 1.3.2 XPC バックパネル



- B1. AC 電源ソケット
- B2. eSATA 電源ポート
- B3. eSATA ポート
- B4. USB 2.0 ポート
- B5. フロントスピーカーアウト (L/R)
- B6. サイドサ라운드スピーカーアウト (L/R)
- B7. クリアCMOSボタン
- B8. LAN ポート
- B9. ラインインポート
- B10. センター/バススピーカーポート
- B11. リアサ라운드スピーカー (L/R) ポート
- B12. ワイヤレスLANキット追加用
- B13. パラレルポート&PS/2 ポート追加用
- B14. SPDIFアウトポート

■ 1.4 バックパネル

1. 電源ケーブル (1)



2. ATI CrossFireX (1)



3. 両面接着シート (2)、結束バンド (2) ケーブルクリップ (1)、ネジ



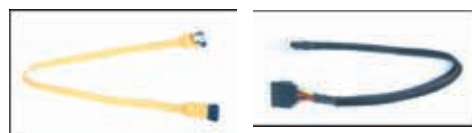
4. フロント足 (2)



5. 熱伝導グリス (1)



6. eSATA延長キット (1) IDE ケーブル (1)



7. マザーボードソフトウェアDVD (1)



8. XPCインストールマニュアル (1)



9. Y Type SPDIF OUT ケーブル (別売) PCR-SP3H60-S000



10. eSATA expansion upgrade kit (別売) PCR-CO3100-K002



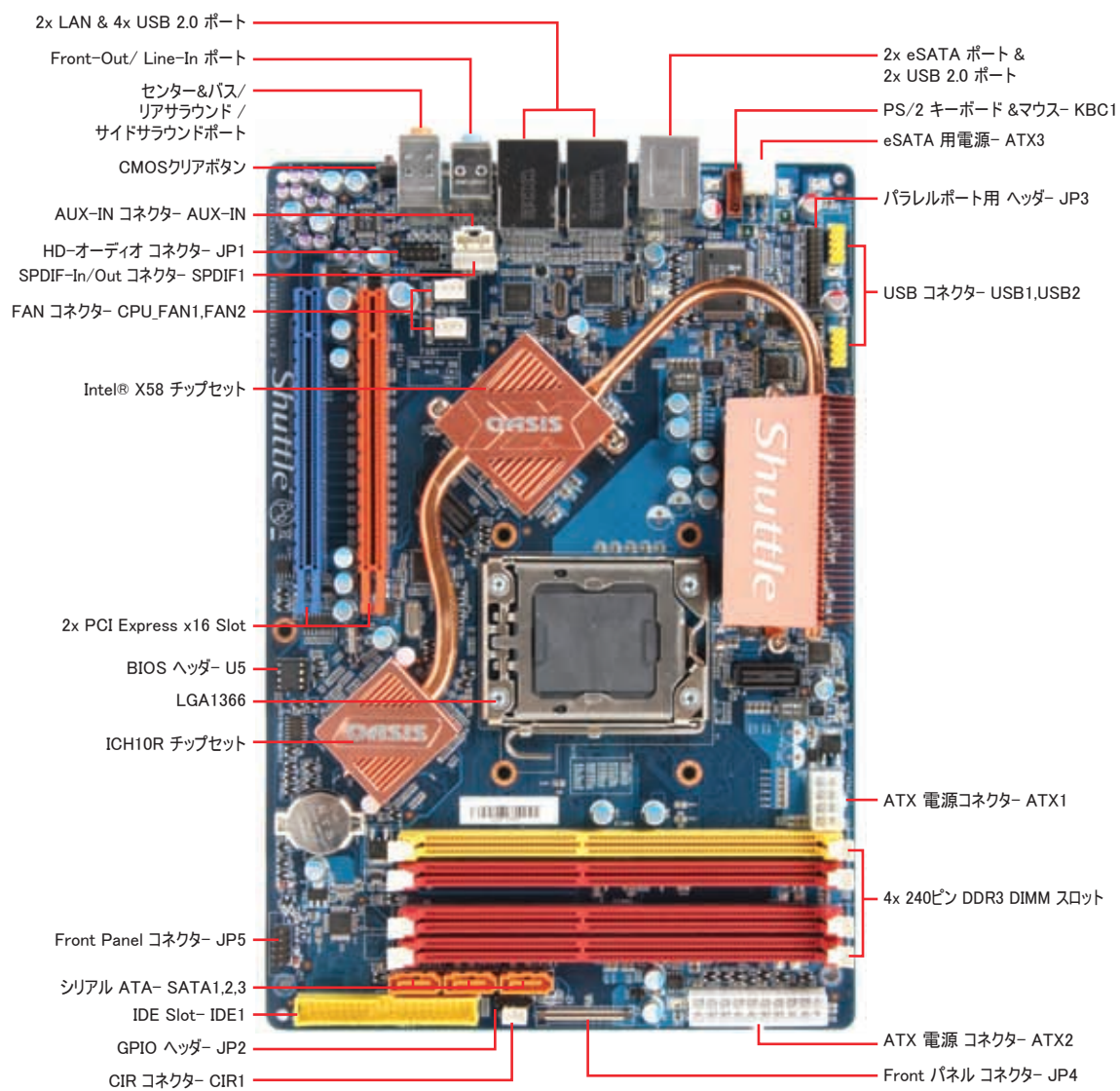
11. NVIDIA SLI bridge (別売) PCR-OTSL10-3L00



内容物は、予告なく変更される場合がございます。内容に明らかな欠品等がございましたら、販売店へご連絡下さい。

■ 1.5 XPC マザーボード

■ 1.5.1 SX58H7 マザーボード



■ 1.5.2 ジャンパー設定

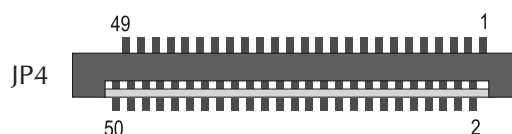
✂ フロントパネルヘッダ

JP4ヘッダは、フロントパネル接続基盤を経由して送られてくる電気信号に50ピン構成で使用されています。JP5ヘッダはフロントパネルからケーブルで送られてくる電気信号に使われています。

フロントパネルには、HDDLED、リセットボタン、電源LED、電源スイッチ、USBコネクタ、eSATAコネクタ、オーディオコネクタが用意されています。

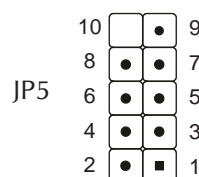
ピン配列 (JP4):

1 = USBPWR	2 = USBPWR	3 = USBPWR	4 = USBPWR	5 = USBPWR
6 = USBPWR	7 = USBPWR	8 = USBPWR	9 = USB A +	10 = USB A -
11 = USBGND	12 = USBGND	13 = USB B +	14 = USB B -	15 = USBGND
16 = USBGND	17 = eSATATX +	18 = eSATATX -	19 = GND	20 = GND
21 = eSATARX +	22 = eSATARX -	23 = GND	24 = GND	25 = FMIC
26 = MIC_PWR	27 = SNESE0	28 = AUDIOGD	29 = LINE_IL	30 = AUDIOGD
31 = LINE_IR	32 = SENSE1	33 = AUDIOGD	34 = AUDIOGD	35 = LINE_OR
36 = LINE_FR	37 = AUDIOGD	38 = AUDIOGD	39 = LINE_OL	40 = LINE_FL
41 = AUDIOGD	42 = AUDIOGD	43 = HDPWR	44 = GLEDA	45 = HDLED
46 = GLEDB	47 = RST_SW	48 = PW_SW	49 = VCC	50 = VCC



ピン配列 (JP5):

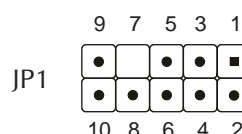
1 = HDLEDPWR	2 = GRNLEDA
3 = -HD_LED	4 = GRNLEDB
5 = BT_SEL	6 = -PWRSW
7 = GND	8 = GND
9 = NC	10 = KEY



✂ HD-オーディオ コネクタ

ピン配列 (JP1):

1 = ACZ_SDIN0	2 = ACZ_BIT_CLK
3 = ACZ_SDIN1	4 = ACZ_RST-
5 = ACZ_SDIN3	6 = ACZ_SYNC
7 = KEY	8 = ACZ_SDOUT
9 = GND	10 = GND

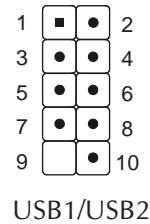


✂ 拡張 USB ヘッダ

マザーボードにあるUSBヘッダを使う事で、USB機器を追加する事ができます。これらのヘッダは、USBケーブルにのみ使用するようお願い致します。

ピン配列 (USB1,USB2):

1 = USBPWR	2 = USBPWR
3 = USBPXN	4 = USBPXN
5 = USBXP	6 = USBXP
7 = GND	8 = GND
9 = Key	10 = NC



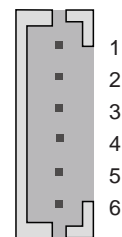
USB1/USB2

✂ PS/2 キーボード & マウス ヘッダ

KBC1ヘッダを利用してPS/2 キーボード&マウスをご利用いただけます。

ピン配列 (KBC1):

1 = KDAT
2 = KCLK
3 = 5V_DUAL
4 = GND
5 = MDAT
6 = MCLK



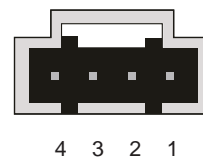
KBC1

✂ AUX-IN コネクタ

CD-ROMドライブもしくはDVD-ROMドライブをご利用になる際、マザーボードにある4pinヘッダへ音源を接続する事ができます。

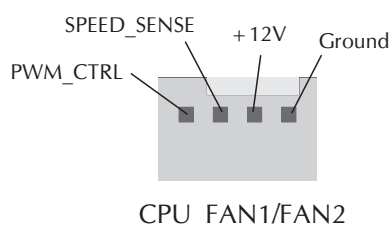
ピン配列 (AUX_IN1):

1 = AUX-IN - Left
2 = Ground
3 = Ground
4 = AUX-IN - Right



Fan ヘッダ

マザーボードからは12Vの冷却FAN用電源が供給されています。これらは、CPUクーラー、ケース、チップセット用FANに使用する事ができます。

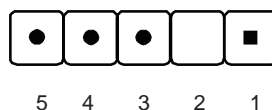


ケーブルの長さや接続端子の形状は、FANメーカーにより異なります。事前にご確認の上、ご利用下さい。

GPIO ヘッダ

ピン配列 (JP2):

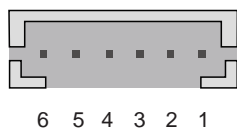
- 1 = VCC
- 2 = KEY
- 3 = GND
- 4 = BLUETOOTH-GPIO
- 5 = WIFI-GPIO



SPDIF-In/Out コネクタ

ピン配列 (SPDIF1):

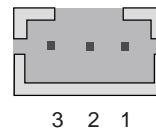
- | | |
|--------------|---------------|
| 1 = SPDIF_IN | 2 = GND |
| 3 = VCC | 4 = GND |
| 5 = VCC | 6 = SPDIF_OUT |



CIR ヘッダ

ピン配列 (CIR1):

- 1 = PIN85_CIRRX
- 2 = 5V_DUAL
- 3 = GND



2 XPC インストールガイド

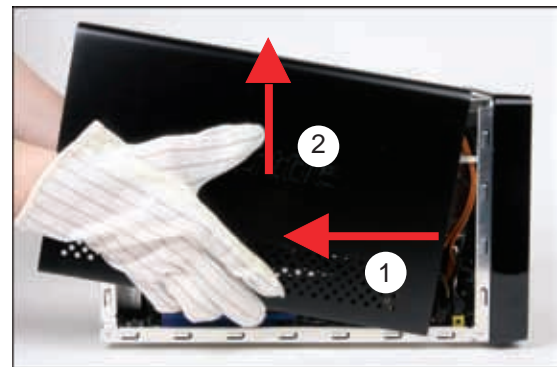
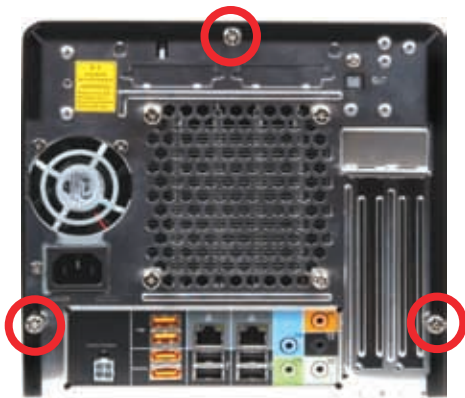
■ 2.1 取り付けの開始



安全のため、ケースを開ける前に電源コードを外していることを確認してください。

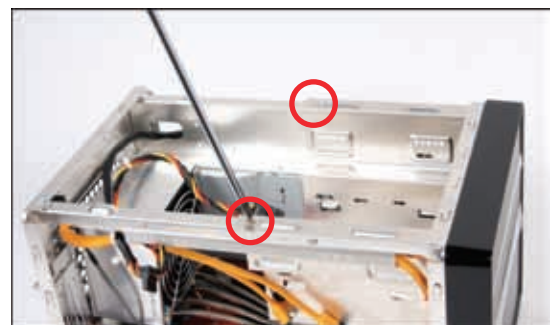
■ 2.1.1 カバーの取り外し

1. シャーシカバーの3本のネジを抜きます。
2. カバーを後ろと上方向にスライドさせます。

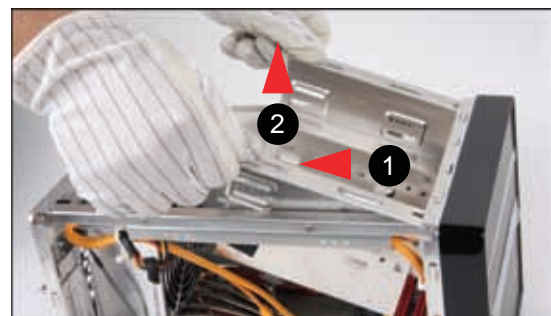


■ 2.1.2 ベイマウントの取り外し

1. 図の通りベイマウントのネジを取り外します。

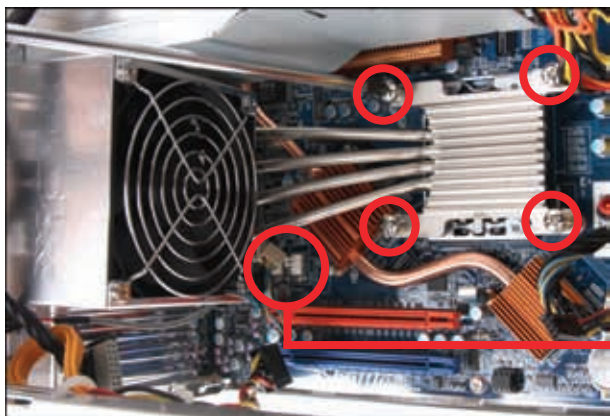


2. ベイマウントを取り外します。

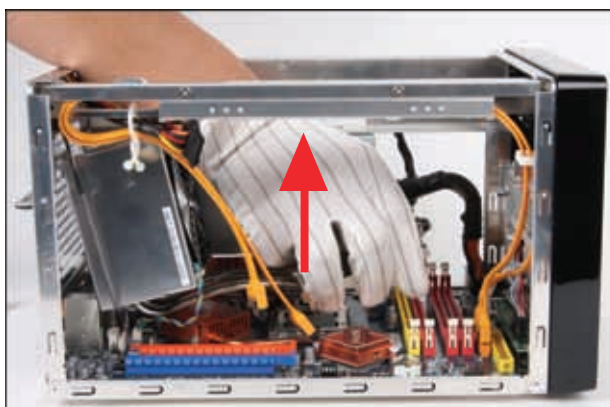
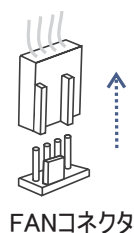


■ 2.2 CPU と ICE の取り付け

■ 2.2.1 ICE の取り外し



1. シャーシ背面のICEファンネジを外し。
2. FANコネクタを取り外し、ICEモジュールにあるネジを外します。



3. ICEモジュールを引き上げるように引き上げるようにして取り外します。

■ 2.2.2 CPUの設置



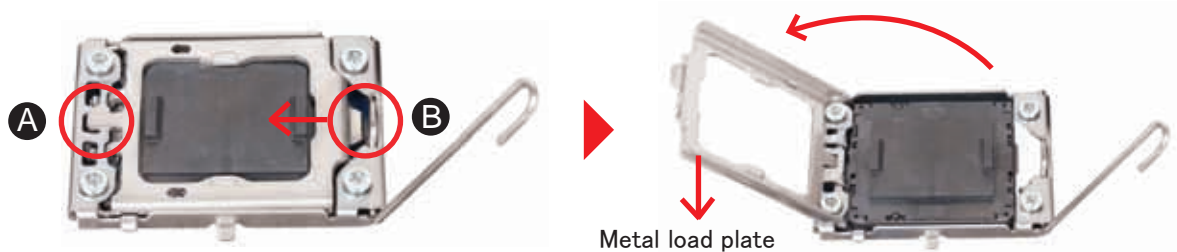
1366ピンソケットは非常にデリケートな為、簡単に破損してしまいます。
CPUを取り付ける際は、必ず細心の注意を払っていただけますようお願い致します。
またCPU設置の際は、必ず電源をOFFにし、ケーブルが抜けている事を。

確認してから作業を行うようお願い致します。

1. 將插槽拉桿解鎖並向上提起。



2. ① A を部位を押しながら、② B 部分を引き上げてください。

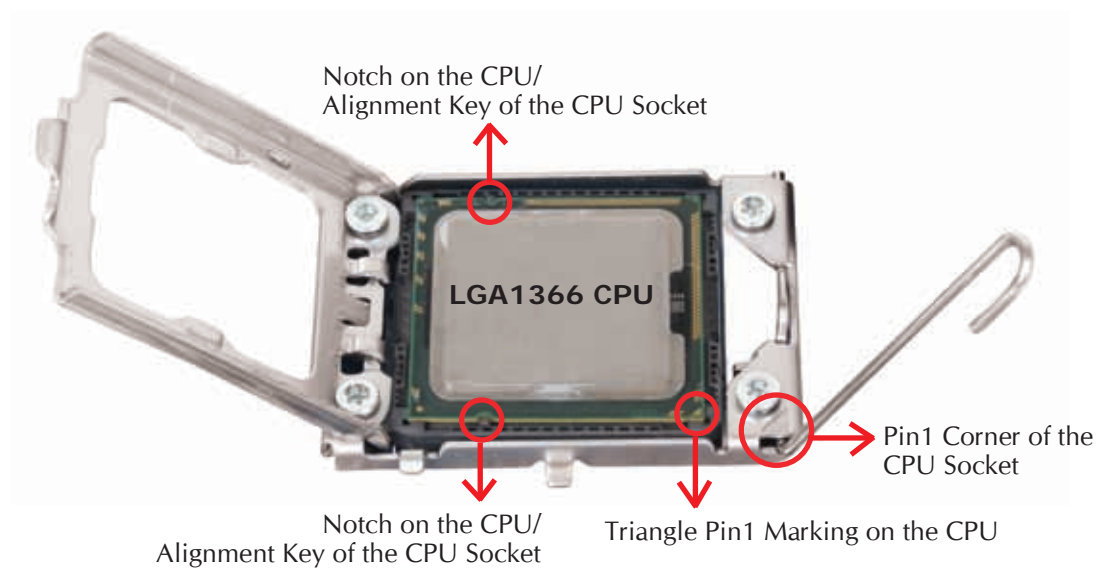


3. プラスチックカバーを取り外します。



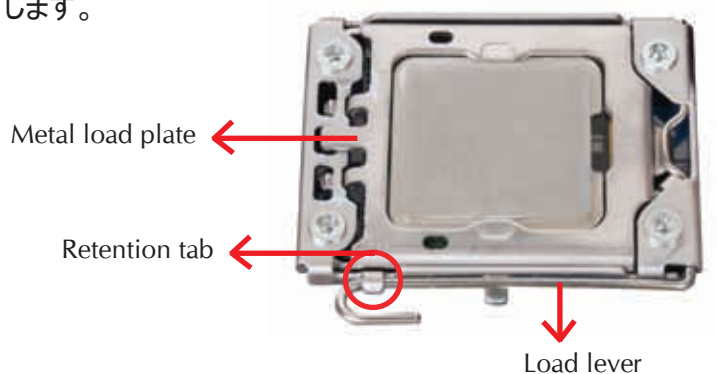
ソケット内部には絶対触らないでください。CPUを設置しない場合は、保護の為にプラスチックカバーを取り付けるようお願い致します。

4. CPUとソケットには、それぞれ切り込みが入っております。図を参考にソケットとCPUの切り込みを合わせるように設置して下さい。設置の際は、CPU側についている三角のマークを参考に向きを合わせて下さい。

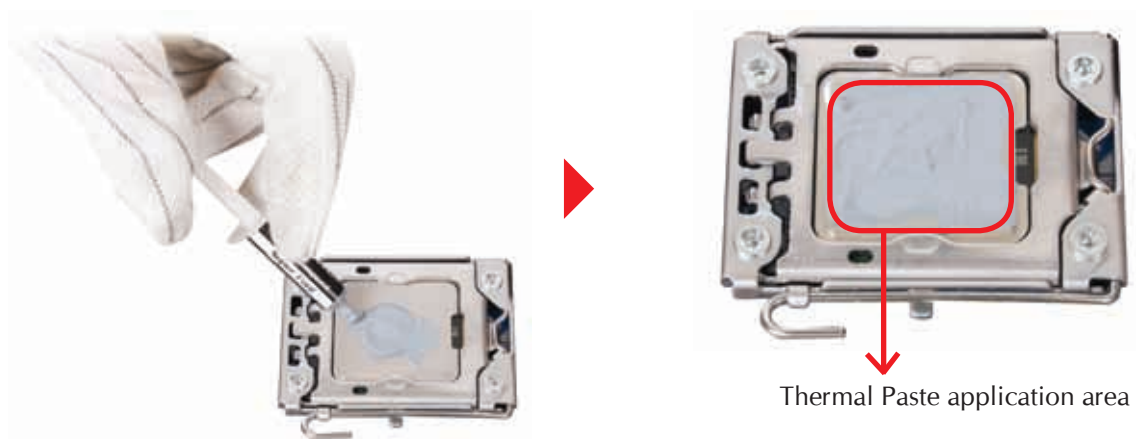


CPUの設置には細心の注意をお願い致します。力強く差し入れるとCPU及びソケットの損傷につながります。

5. 金属板を閉じ、レバーを下して固定します。



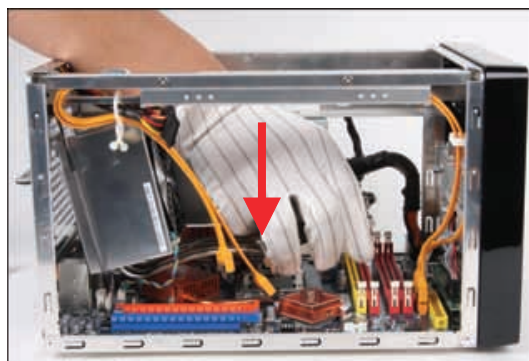
6. CPUの表面に熱伝導グリスを塗布します。



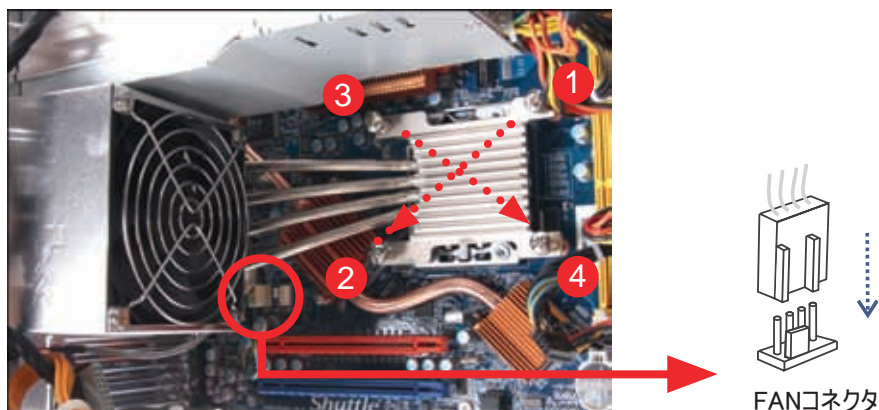
塗りすぎないように注意して下さい。また化学品の為、皮膚や目に付着した場合は、よく付着部位を洗い医者へ相談して下さい。

■ 2.2.3 ICE の取り付け

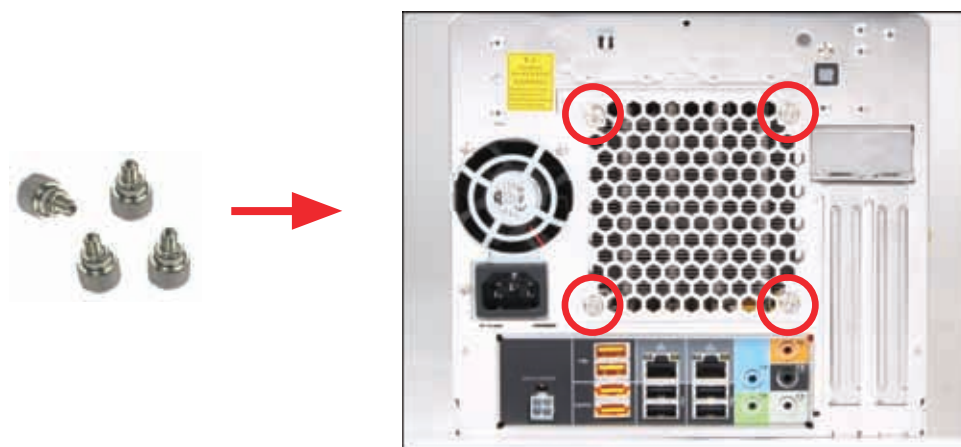
1. ICEモジュールをネジ穴に合わせるようにしてCPUへ設置します。



2. マザーボードへ差し入れたネジを締めます。それぞれ押し込むようにしながら締めるようにします。
3. FANコネクタへコネクタを接続します。



4. ケース背面の4つのネジを締めます。



■ 2.3 メモリーの取り付け

■ 2.3.1 ガイドライン

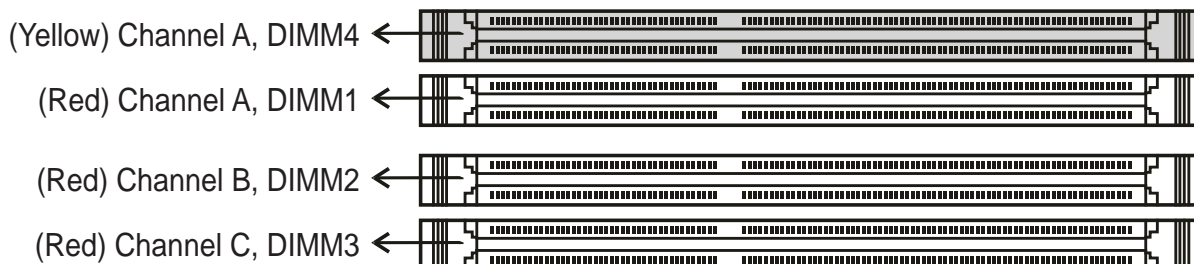
メモリを取り付ける前に、必ずお読み下さい。



マザーボードに対応しているメモリーである事を確認して下さい。
使用するメモリーは同一製品である事を推奨致します。
(対応製品は弊社ウェブサイトでご確認下さい。)
メモリーは、誤って挿し入れない様に切り込みが入っています。
もし上手く挿し入れられない場合は、切り込みを確認してください。

本製品は、DDR3メモリーを使用します。デュアルチャンネル、トリプルチャンネルに対応している為、メモリーの設置後、BIOS側で自動的に認識し動作するようになっています。

メモリーの設置方法により、シングルチャンネル、デュアルチャンネル、トリプルチャンネルとして、それぞれ動作致します。図を参考にメモリーを設置します。



シングルチャンネルモードの設定

Mode	Sockets			
	DIMM1 (Red)	DIMM2 (Red)	DIMM3 (Red)	DIMM4 (Yellow)
1 DIMM	DS/SS	--	--	--

(SS=Single-Sided, DS=Double-Sided, "--"=No Memory)



(Red) Channel A, DIMM1



デュアル及びトリプルチャンネルモードは、DDR3メモリー1つでは動作致しません。DDR3メモリー1つでの動作時は、DIMM1 (Red)へ挿し入れるようにして下さい。

デュアルチャンネルモードの設定

Mode	Sockets			
	DIMM1 (Red)	DIMM2 (Red)	DIMM3 (Red)	DIMM4 (Yellow)
2 DIMMs	DS/SS	DS/SS	-	-

(SS=Single-Sided, DS=Double-Sided, "--"=No Memory)



デュアル及びトリプルチャンネルモードでの動作をさせる場合、仕様するメモリーは同一製品に統一する事を推奨致します。



(Red) Channel A, DIMM1

(Red) Channel B, DIMM2



デュアルチャンネルモードを有効にする場合、DIMM1 (Red)とDIMM2 (Red)へメモリーを挿し入れます。

トリプルチャンネルモードの設定

Mode	Sockets			
	DIMM1 (Red)	DIMM2 (Red)	DIMM3 (Red)	DIMM4 (Yellow)
3 DIMMs	DS/SS	DS/SS	DS/SS	-
4 DIMMs	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

(SS=Single-Sided, DS=Double-Sided, "--"=No Memory)



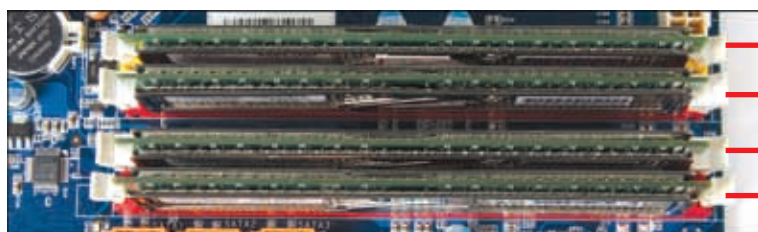
(Red) Channel A, DIMM1

(Red) Channel B, DIMM2

(Red) Channel C, DIMM3



トリプルチャンネルモードを有効にする場合、DIMM1 (Red)とDIMM2 (Red)とDIMM3(Red)へメモリーを挿し入れます。



(Yellow) Channel A, DIMM4

(Red) Channel A, DIMM1

(Red) Channel B, DIMM2

(Red) Channel C, DIMM3



トリプルチャンネルモードを4つのメモリーを使用して有効にする場合、DIMM1 (Red)とDIMM2 (Red)とDIMM3(Red)とDIMM4(Yellow)へメモリーを挿し入れます。

■ 2.3.2 メモリーの取り付け

! メモリーの取り外し及び、取り付けの際は、必ず電源がOFFになっている事、電源ケーブルが外れている事を確認して下さい。マザーボード及び、メモリーが損傷する恐れがあります。

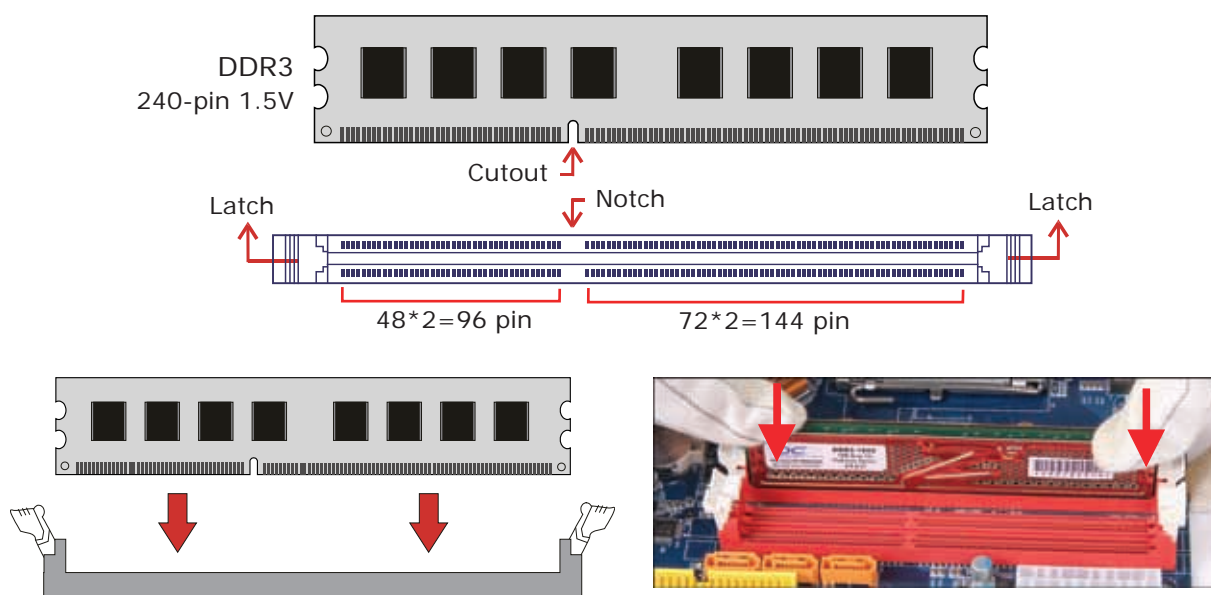
DDR3 とDDR2メモリーは、互換性がありません。メモリーを取り付ける際は、かならず対応しているメモリーである事を確認して下さい。

1. DIMMのロックを外します。

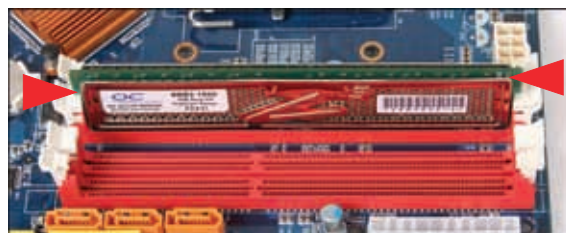
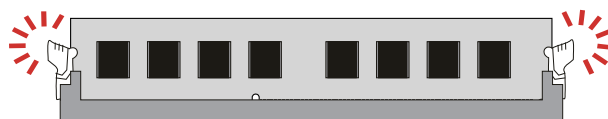


2. メモリーの切り込み位置を確認し、メモリーを挿し入れます。

! DDR3メモリーの向きを間違えると、挿し入れる事はできません。



3. 挿し入れると、ロックがかかります。



! メモリーを追加する際は、同作業を繰り返して下さい。

■ 2.4 周辺機器の取り付け

■ 2.4.1 HDDの取り付け

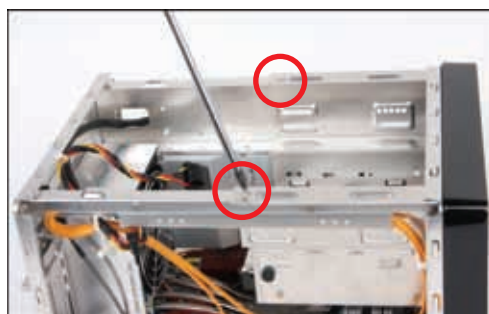
1. 結束されているHDD電源ケーブルを取りだします。



2. HDDをベイマウントに設置し、ネジを側面より締めます。



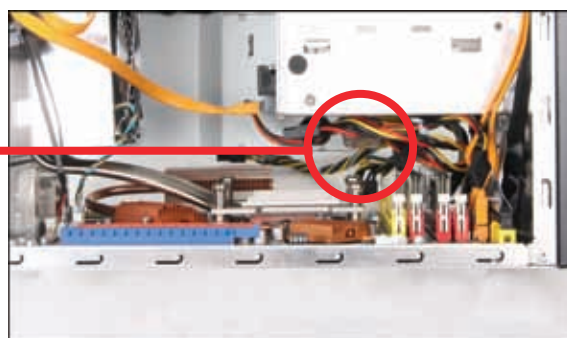
3. ベイマウントを取り付け、ネジを締めます。



それぞれの側面にネジがしっかり止まっている事を確認してください。

4. ベイマウントの下部にあるクリップにケーブルをまとめて挟みます。

Rack Clip



5. シリアルATAケーブル及び電源ケーブルをHDDへ接続します。

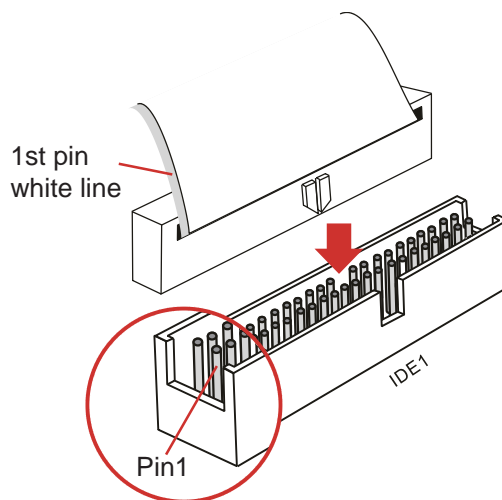


Serial ATA Power Cable

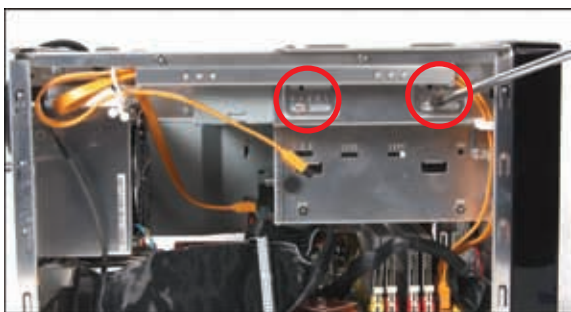
Serial ATA Cable

■ 2.4.2 光学ドライブの取り付け

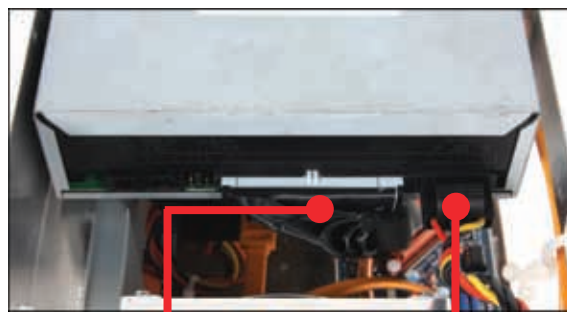
1. IDE1 ヘッドへIDEケーブルを挿します。



2. 光学ドライブをベイマウントへ差し入れます。
3. 側面よりネジを締めます。



4. IDE ケーブル及び電源ケーブルを光学ドライブへ接続します。



IDE Cable

Optical Drive Power Cable

■ 2.5 拡張機器の取り付け

■ 2.5.1 PCI Express x16ビデオカードの取り付け



1. 参考例として、PCI Express x16ビデオカードの場合を紹介します。ブラケットのネジを外します。

PCI Express x16 slot

2. ブラケット上部にある蓋を上げて、ブラケットを取り外します。

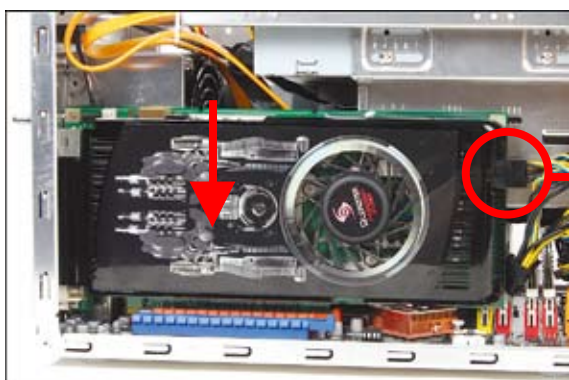


Lift up

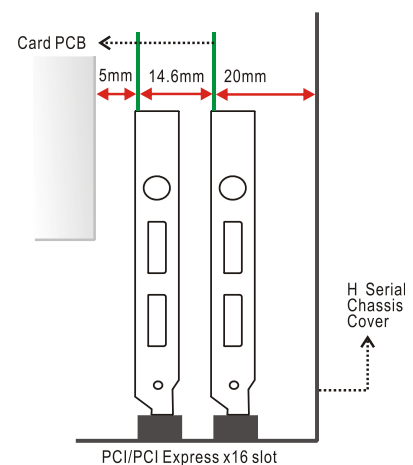


Slot Bracket

3. 図にある通り、PCI Express x16ビデオカードを挿し入れ、電源ケーブルを接続します。



Power Cable



搭載可能なカードサイズは、267mm x 98mm x 18mmまでです。
追加したい場合は、同作業を繰り返します。

4. ブラケットを締めます。



■ 2.5.2 eSATA HDDの取り付け

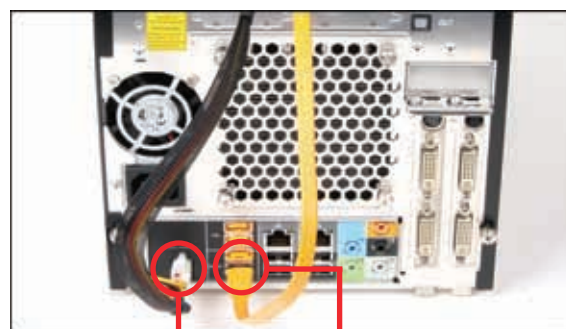
1. eSATA-SATA変換ケーブルと、電源ケーブルをアクセサリ箱より取り出します。
2. eSATA-SATA変換ケーブルを、eSATAポートへ接続します。電源ケーブルを電源ポートへ接続します。



eSATA to SATA Cable



External SATA Power Cable

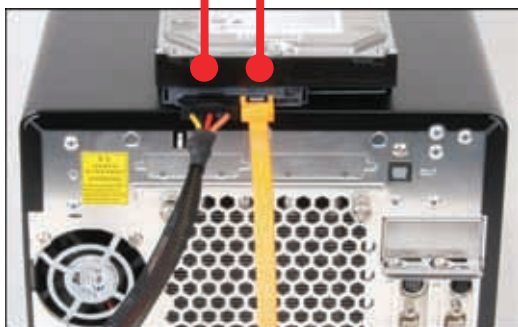


eSATA Power Port

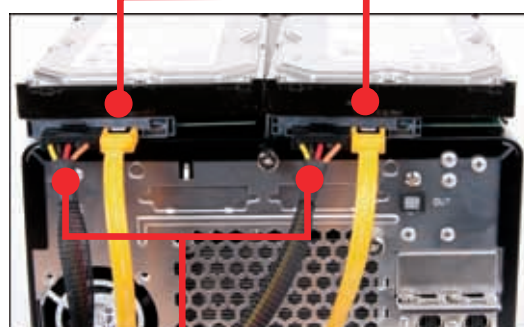
eSATA ports

3. eSATA-SATAケーブルと電源ケーブルをHDDへ接続します。

External SATA Power Cable eSATA to SATA Cable



eSATA to SATA Cable

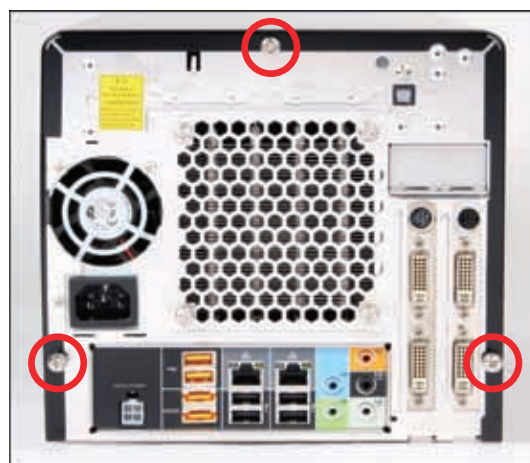
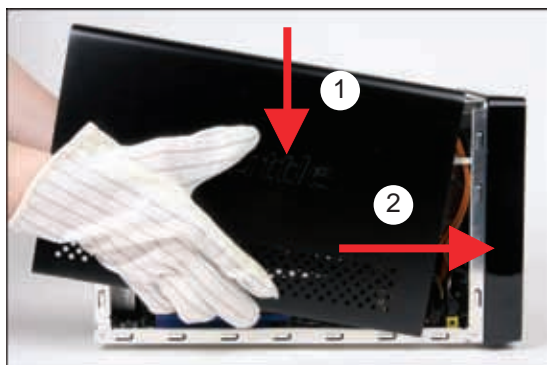


eSATA expansion upgrade kit (Optional)

■ 2.6 最後に

■ 2.6.1 シャーシカバー

1. カバーを戻し、ネジを締めます。



■ 2.6.2 フロント足の取り付け

1. アクセサリー箱より足を2つ取り出します。
2. ケース底面へ取り付けます。



Front feet



■ 2.6.3 完成



■ 2.7 XPC アクセサリ

Shuttleは様々なアップグレードキットを販売しております。
これらは <http://www.shuttle.com> で確認する事ができます。

■ 2.8 技術サポート

1. Shuttle Inc.
<http://global.shuttle.com/>
2. 技術サポート
<http://global.shuttle.com/support.jsp>
3. ダウンロード
<http://global.shuttle.com/download.js>
4. ベアボーンの FAQ
http://global.shuttle.com/support_faq.jsp
5. ベアボーンサポートリスト
http://global.shuttle.com/support_list.jsp

■ 2.9 Technical Notes: CMOSクリアボタン

本製品は、ボタンを押すことで、簡単にCMOSクリアを行う事ができます。本作業を行うことで、BIOSの設定を工場出荷時に戻すことができます。

1. 電源をOFFにし、電源コードを引き抜きます。
2. CMOSクリアボタンを、先の細い棒等で5秒程押します。
3. 電源コードを接続し、電源をONにします。



クリア CMOS ボタン



CMOSクリアの際は、電源ケーブルを必ず取り外して下さい。